生活

菊池 勇希

思いや願いの実現に向かって主体的に活動することを通して，一人一人がよさや可能性を拓く生活科の学習

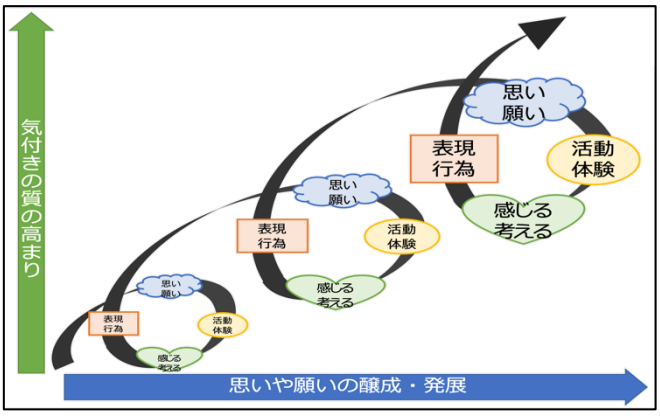
Ⅰ　生活科研究の方向性

1　主題設定の理由

学習指導要領において，生活科は「自立し生活を豊かにしていくための資質・能力」の育成を目標としています。今まで以上に「発達段階に応じた思考や認識の育成」「幼児教育との接続」「中学年の各教科等への接続」を大切にしながら，一人一人の思いや願いが実現する活動や体験を重視した学習活動を展開することで，児童が生活科の学びを実生活に生かし，よりよい生活を創造していくことが求められています。

これまでの本校の研究では，体験活動と表現活動とが豊かに行きつ戻りつする相互作用を意識した学習過程を大切にしてきました。特に，伝え合い交流する場の工夫により，児童が次の活動や体験を創り出す姿が見られました。一方で，対象と関わる活動や体験を通して，自分と対象との関わりを深め，自分の存在・よさ・成長などといった「自分自身への気付き」を得て，実生活への意欲や自信をもつことについては課題が残りました。

全体研究では，「探究する子供を育てる教育活動の創造」をテーマとしています。生活科における探究とは，生活科の学習過程（思いや願いをもつ，活動や体験をする，感じる・考える，表現する・行為する）を繰り返し，気付きの質が高まることと押さえました。児童が生活科の学習過程を繰り返していくためには，学習の原動力である「思いや願い」を醸成したり発展させたりすることが重要です。また，思いや願いの実現に向かって対象へ主体的に関わることができる単元構成や指導と評価の工夫が必要です。



【生活科における探究のイメージ図】

そこで，研究主題を「思いや願いの実現に向かって主体的に活動することを通して，一人一人がよさや可能性を拓く生活科の学習」と設定しました。「思いや願いの実現に向かって主体的に活動する」とは，児童が思いや願いを明確にし，その実現のために自ら対象に関わったり，関わりを繰り返したりすることです。また，「一人一人がよさや可能性を拓く」とは，思いや願いの実現に向かう活動や体験を繰り返すことを通して，自分自身への気付きを得て，よりよい生活を創造する意欲や自信をもつことです。

2　目指す児童の姿とその具体

対象への主体的な関わりを通して，自分をよりよく理解する児童

「対象への主体的な関わり」とは，児童が思いや願いを実現するために，活動や体験に没頭したり，繰り返し対象と関わったり，対象とのよりよい関わり方を模索したりすることです。

「自分をよりよく理解する」とは，児童が自分自身への気付きを得ることで，満足感や成就感，やり甲斐などの手応えをもつことです。また，それらの手応えによって，生活科での学びを実生活に生かす意欲や自信をもつことです。

Ⅱ　研究内容の具体

１　思いや願いの実現に向かう単元構成の工夫

生活科では，対象との出会い方を工夫し，児童の思いや願いを醸成することが重要です。そこで，思いや願いを醸成する出会いの活動について整理しました。また，思いや願いを実現するためには，他教科等で育んだ資質・能力や学校内外のリソースを活用することが必要だと考えました。そこで，カリキュラム・マネジメントの視点での単元構成について研究を進めました。

○思いや願いを醸成する出会いの活動

・対象に浸ることで興味や親しみを高める
（例）１年「きせつとなかよし あき」

【落ち葉での遊び】

【秋の素材を使ったおもちゃ】

・対象への出会いの演出により憧れを抱く
（例）１年「きれいにさいてね わたしのはな」

【２年生からのプレゼント】

【アサガオの栽培活動】

○カリキュラム・マネジメントの視点での単元構成

・教科等横断的な視点での単元構成
（主に国語「書くこと」，図工「造形遊び」など）
・学校内外のリソースを活用した単元構成
（附小の森，教材園，異学年，幼稚園，地域人材など）

（例）１年「きせつとなかよし なつ」

２　気付きの質を高める働き掛けの工夫

生活科では，児童が思いや願いをもって対象と関わるとともに，教師の意図的・計画的な働き掛けによって気付きの質を高めていくことが重要です。そこで，体験活動での気付きを自覚的にしたり，関連付けたりするための教師の働き掛けの工夫について研究を進めました。

○体験活動後の教師の働き掛けの工夫

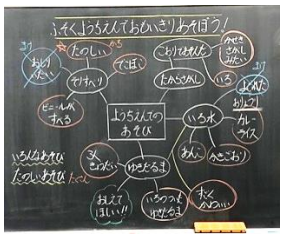
・活動の振り返り，伝え合い（ICTの活用）

【児童が撮影】

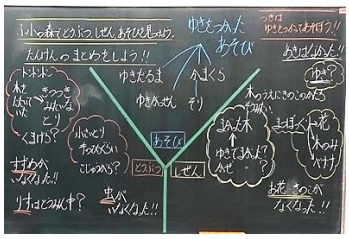
【教師が撮影】

【客観的に振り返る】
【伝え合いの充実】

・気付きの共有，関連付け（思考ツールの活用）



【イメージマップ】



【Ｙチャート】

３　自分をよりよく理解する評価の工夫

学習活動を児童の思いや願いに寄り添った形にすることによって，一人一人の気付きは多様なものになります。そこで，多様な気付きを想定し，多様な気付きを見取り，フィードバックするために「気付きの想定表」を作成・活用しました。

○「気付きの想定表」の作成・活用

・想定表の作成（児童の実態や対象の特質に応じた気付きの具体化）
・想定表の活用
（具体的な活動や体験における気付きの質を見取り，指導に生かす）

分類		具体例
自分自身への気付き		・遊び方を工夫して、もっとみんなと楽しくあそびたいな。 ・友達と一緒に遊ぶと、一人よりももっと楽しかったよ。 ・困っている友達に作り方を教えてあげられるようになったよ。 ・いろいろな道具を使ってシャボン玉を作れるようになったよ。 ・ピカピカの泥団子が作れるようになったよ。　など
対象への気付き	関係的な気付き	＜遊び方の試行錯誤や友達との関わり合いを通して得た気付き＞ ・水が多いと泥団子が固まらないよ。　・さらさらの土を使うとピカピカになるよ。 ・割れたときには水をつけると治るよ。　・しっかりこねたほうがカチカチになるよ。 ・○○と△△を組み合わせると面白いシャボン玉ができたよ。 ・フラフープを使うと大きなシャボン玉ができるよ。 ・息の強さによってシャボン玉の数や大きさが変わるよ。　など
	個別的な気付き	＜手触りや色、形など五感を用いた気付き＞ ・泥を触るのは気持ちいいね。　・泥が固くなってきたよ。 ・シャボン玉はキラキラしているね。　・シャボン玉は丸い形だね。　など ＜これまでの経験に基づく気付き＞ ・泥団子は土や水を使って作るよ。　・泥団子はカチカチになるよ。 ・息を吐くとシャボン玉ができるよ。　・シャボン玉はすぐに割れちゃうよ。　など

（例）１年「きせつとなかよし なつ」

＜２年次研究の重点＞

○カリキュラム・マネジメントの視点での単元構成の工夫
○「気付きの想定表」を活用した児童の見取りとフィードバック

Ⅲ　研究実践

１年生実践　『きせつとなかよし ふゆ』

実践のテーマ：互いの遊びの楽しさを見付けたり，比べたりする活動を通して，
自らの遊びの楽しさを多面的に捉える学習

１　研究授業のねらい

本単元は，附小の森を観察したり，雪や氷を使って遊んだりする活動を通して，冬の自然の特徴や違いを見付けたり，遊びや遊びに使うものを工夫して創り出したりすることができ，冬の自然の様子や四季の変化，雪や氷を使った遊びの面白さに気付くとともに，自然や冬を取り入れ，みんなと楽しみながら遊ぼうとすることをねらいとしました。

指導に当たっては，附小の森や附属旭川幼稚園の園庭をフィールドに，友達や園児と一緒に雪や氷を使った遊びに触れることから学習を始めました。また，テラスにバケツやスコップなどの道具を常設したり，旭川冬まつり実行委員会の「みんなの冬2021」に作品を投稿したりすることで，休み時間や家庭でも雪や氷を使って遊びたいという思いや願いが持続するようにしました。更に，単元の中盤では，旭川雪まつり実行委員の方をゲストティーチャーとして招き，型を使った雪だるま作りや雪像作りの体験，雪や氷を使った遊びの悩みを相談する活動を行いました。

２　単元の指導計画

次	時	学習活動	対象や自分を よりよく理解する姿
1	① ②	冬の附小の森には，何があるのかな？ ○冬の附小の森に探検に行く。 ○幼稚園から秋のおもちゃのお礼の手紙をもらう。	・春や夏，秋と比べながら，自然と触れ合ったり遊んだりすることで，季節の移り変わりや冬の様々な遊びに気付く姿 ・みんなで楽しく遊びたいという願いをもって，粘り強く遊びを創り出そうとする姿
	③ ④ ⑤ ⑥	幼稚園のみんなと一緒に遊ぶのが楽しみだな。 ○附属旭川幼稚園の園児と一緒に雪や氷を使って遊ぶ。 ○雪や氷を使ってどんな活動ができそうかを考える。 雪や氷で「ふゆのわくわくバルーンランド」をつくって，みんなであそぼう！	
2	⑦ ⑧ ⑨	雪や氷で○○をつくってみたいな。 ○これまでの経験をもとに，雪や氷を使って遊んだり，遊びに使うものをつくったりする。	・試行錯誤を繰り返しながら，遊びや遊びに使う物をつくることで，その遊びの楽しさや遊びを工夫したり創り出したりする面白さに気付く姿 ・友達のよさを取り入れたり，自分との違いを生かしたりして，遊びをよりよくしようとする姿
	⑩ ⑪ ⑫	次は○○をしたい。どうしたらうまくいくかな？ ○ＧＴの話をもとに，実際に確かめながら，雪や氷を使って遊んだり，遊びに使うものをつくったりする。	
	⑬ ⑭ ⑮ （本時）	教えてもらった方法で，○○を工夫したいな。 ○友達やＧＴなどからの助言を生かして，雪や氷を使って遊んだり，遊びに使うものをつくったりする。 ・それぞれの遊びで実際に遊び，楽しさを伝え合う。 ○○するとうまくできたよ！ 雪や氷を使ってみんなで遊ぶと楽しいな。	
3	⑯ ⑰ ⑱ ⑲	今度は，園児のみんなにも楽しんでもらいたいな。 ○園児たちが楽しく遊べるように準備をする。 ○雪や氷を使って，園児と一緒に楽しく遊ぶ。 ○単元全体での自らのよさや成長について振り返る。 前よりもっと冬が好きになったよ！ 雪や氷で遊んで○○ができるようになったよ！	・雪や氷の使い方を工夫したり，友達と楽しく遊んだりしたことを振り返り，表現することで，思いや願いの実現による達成感や自らの変容，仲間との一体感などに気付く姿。 ・みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し，実生活の中でも雪や氷を使った遊びなどを実践しようとする姿。

3　本時の学習

(1) 本時の目標

互いの遊びの楽しさを見付けたり，比べたりする活動を通して，自分が考えた雪や氷を使った遊びの楽しさや遊びを工夫したり創り出したりする面白さに気付くことができる。

(2) 本時の展開

	主な学習活動	研究とのかかわり・留意点
13・14/19	1　前時までの学習を確認する。 2　学習内容をとらえる。	・活動の様子（写真や映像）や児童の思いや願いについて大型提示装置で確認する。
	「ふゆのわくわくバルーンランド」で遊んで，楽しいところを伝え合おう。	
	「まずは〇〇を完成させるぞ。」 「迷路チームの楽しいところはどこかな？」 3　プレーグラウンドで雪や氷を使って遊んだり，遊びに使うものを作ったりする。 4　みんなで「ふゆのわくわくバルーンランド」で遊。	・教師は活動の様子を写真や映像で記録しておく。 ・活動後に自分の遊び，友達の遊びについてのアンケートを行う。
15/19（本時）	5　アンケート結果を提示し，本時の学習課題を明確にする。	
	自分のチームの遊びは，どんなところが楽しいのかな？	
	6　自分や他のチームの遊びの楽しさをワークシートにまとめる。 「そりがよく滑っておもしろい。」 「迷路はいろんな道があったよ。」 「かまくらの屋根に色がついていてきれい。」 「雪だるまがたくさんあってかわいい。」など	◇体験活動後の教師の働き掛け　研究視点２ ・写真や映像を共有し，活動の様子を各自の端末で確認できるようにする。
	7　遊びの楽しさを伝え合う。 「ツルツルになるようにお尻で何度も滑ったよ。」 「雪を掘るのは大変だったけれど頑張ったよ。」 「上から色水をかけると屋根がもっと固くなったよ。」 「固まりやすい雪をたくさん探したよ。」など 8　学習を振り返り，思いや願いをもつ。	◇体験活動後の教師の働き掛け　研究視点２ ・Ｘチャートを用いて楽しさを整理する。 ・必要に応じて写真や映像を提示する。 ・楽しさを生み出した児童の努力や工夫などが明確になるよう働き掛ける。
	ぼくのチームの遊びの楽しいところは〇〇だよ。□□したから楽しいんだよ。 幼稚園の子にも「ふゆのわくわくバルーンランド」で遊んでもらいたいな。	
		【評価規準　知識③】 雪や氷を使った遊びの楽しさや遊びを工夫したり創り出したりする面白さに気付いている。（発言やワークシートの分析）
	9　振り返りを共有し，意欲付けをする。	◇「気付きの想定表」を活用した評価　研究視点３ ・児童の多様な気付きを見取り，目標に合わせてフィードバックする。

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

〇自分や他のチームの遊びの楽しさについての気付きを自覚的にし，表現する姿（６の場面）
〇遊びの楽しさと，それにつながった工夫や自然の中のきまりを関連付けて，自らの遊びの楽しさを多面的に捉える姿（７・８の場面）

４　授業の実際

カリキュラム・マネジメントの視点での単元構成の工夫

本単元では，児童の思いや願いの実現に繋げるために，①教科等横断的な学び，②学校外リソースの活用といったカリキュラム・マネジメントの視点での単元構成を工夫しました。

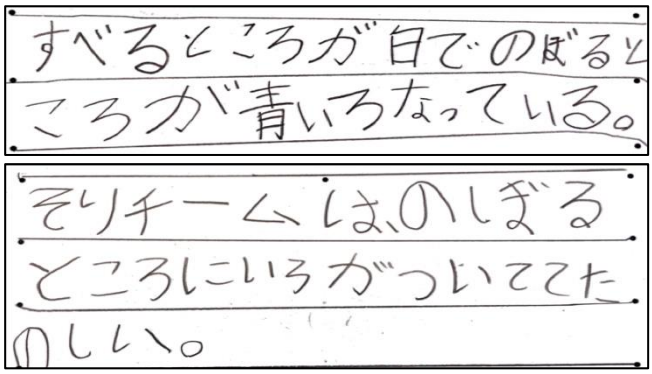
①については，図画工作科「カラフルいろみず（造形あそび）」の学習等と教科等横断的な視点で単元を構成しました。第２次の雪や氷を使った遊びの際には，図画工作科で育成した資質・能力を生かして雪や氷に色をつけることで，遊びをよりよくしようとする姿が見られました。

そり滑りチームは,「どこを通って山に登るかを分かりやすくしたい」という思いや願いから，山に登るための道を色水で着色しました。本時では，友達から「滑るところと登るところが分かれている。」「登るところに色がついていて楽しい。」などと認められました。その結果，思いや願いをもって工夫したことが自分たちの遊びの楽しさにつながったことに気付きました。

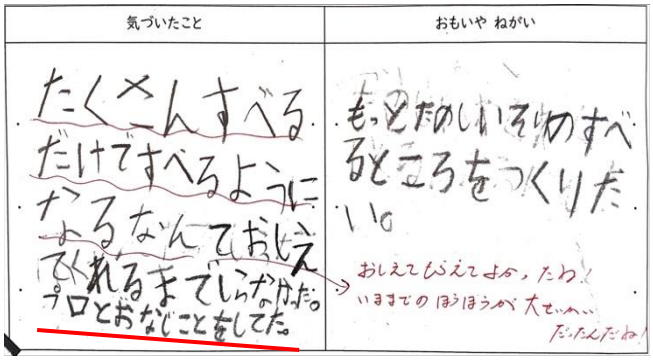
②については，児童の思いや願いの実現に繋げるために，旭川冬まつり実行委員（以下ＧＴ）と連携しながら指導を行いました。ＧＴとの関わりを通して，気付きを確かなものにしたり，思いや願いの発展につなげたりする姿が見られました。

第 10～12 時では,児童がＧＴに雪や氷を使った遊びについて相談できるようにしました。A児は，そり滑りの山をより滑りやすくする方法について質問しました。ＧＴは「滑りやすくしたい場所でたくさん尻滑りをするとよい。」と答えました。A児はそれがこれまで自分のしてきた方法と同じであることを知り，自らの工夫が正しかったことに気付きました。また，その方法を使ってもっと遊びを楽しくしたいという新たな思いや願いをもつことにつながりました。

【図工での学びを思いや願いの実現に繋げる姿】



【色水を使った工夫についての記述】



気づいたこと	おもいや ねがい
たくさんすべるだけですべるようになるなんておしえてくれるまでしらなかった。プロとおなじことをしてた。	もっとたのしいそりすべるところをつくりたい。

おしえてもらえてよかったわ！いままでのほうほうが大せいかいだったんだわ！

【第 10～12 時のＡ児の振り返り】

「気付きの想定表」を活用した児童の見取りとフィードバック

本単元では，多様な学習活動における児童の気付きを「気付きの想定表」として具体化し，その気付きを見取ったり，見取りを指導に生かしたりしました。

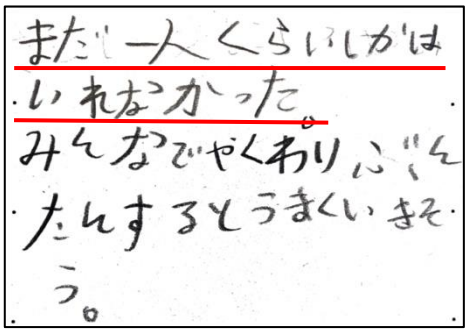
Ｂ児は,「人がたくさん入れるかまくらをつくる」という思いや願いをもってかまくらづくりに取り組みました。前時の振り返りには，「(かまくらの中に) まだ１人ぐらいしか入れない。」という記述があり，活動の成果を実感できずにいました。しかし，Ｂ児のかまくらには数人入ることができる広さがあり，Ｂ児の捉えと実際の広さには違いがありました。

そこで，本時では，教師の意図的

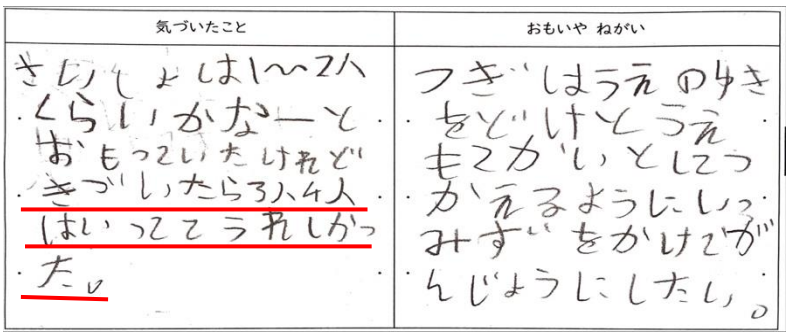
気付きの分類		具体的な子供の姿			
自分自身への気付き		＜自分の存在，よさ，成長について＞ ・友達と一緒に遊ぶと，一人よりももっと楽しかったよ。 ・前よりも冬がすきになったよ。 ・困っている友達に遊び方を教えてあげられるようになったよ。 ・難しくても最後まで諦めずに活動できたよ。　など			
対象への気付き		雪や氷を使った遊び			
	関係的な気付き	＜見付ける・たとえる＞ ・幼稚園の頃にやった，○○は学校でもできたよ。 ・○○は，△△なところが楽しいよ。 ・○○みたいになったよ。　など	＜比べる＞ ・○○が作りやすい日と作りづらい日があるよ。 ・○○するより，△△するほうがうまくいったよ。 ・前は○○だったけど、今は△△だよ。　など	＜試す・見通す＞ ・○○すると△△になりそうだな。 ・○○するともっと楽しくなりそうだな。 ・園児さんのことを考えたら○○したほうがいいな。　など	＜工夫する＞ ・次は友達の○○を生かして遊びたいな。 ・GTから教えてもらった○○を生かしたよ。 ・楽しくするために今度は○○をしよう。　など
		幼児期までの経験や具体的な活動を思い起こす。	*遊びの方法や時間的な変化などについて比べる。*	*一緒に遊ぶ友達のことを考えたり，結果を思い描いたりする。*	*友達やGTからの助言を生かす。*
	個別的な気付き	＜雪や氷を使った遊びについての気付き（遊びの土台となる経験の自覚や諸感覚を通した気付き、遊びを通して生まれた疑問）＞ ・雪をまとめると雪だるまが作れるよ。 ・そりですべると楽しいよ。 ・どうして今日は雪が固まらないのかな？ ・お水を凍らせると氷ができるよ。 ・雪や氷をつかっていろいろな遊びができるよ。 ・もっと○○したいけどどうしたらいいかな？　など			

【「きせつとなかよし ふゆ」気付きの想定表　一部抜粋】

な指名で，友達から「かまくらに４人も入れてびっくりした。」「中が広くて暖かかった。」などという意見を引き出しました。その結果，本時の学習を振り返る場面では，友達の意見とこれまでの自分の考えとを比べながら，「(中に入れる人は) １～２人ぐらいだと思っていたけれど，気付いたら３人４人と入っていて嬉しかった。」と自らの気付きをまとめました。このように，Ｂ児の気付きを見取り，「比べる」思考を働かせることで，関係的な気付きへと気付きの質を高めることができました。また，気付きの質を高めたことで，Ｂ児の「人がたくさん入れるかまくらをつくる」という思いや願いを実現させ，学習に対する満足感をもたせることができました。



【第 12 時のＢ児の振り返り】



気づいたこと	おもいや ねがい
きょうしょは1～2人くらいかなーとおもっていたけれどきづいたら3人4人はいってこうれしかったv	つぎはうえのゆきをどけてこうえもっかいとしてつかえるようにしっみずをかけてがんじょうにしたい。

【本時のＢ児の振り返り】

Ⅳ　２年次研究の成果と課題

２年次研究では，「カリキュラム・マネジメントの視点での単元構成の工夫」「『気付きの想定表』を活用した児童の見取りとフィードバック」を重点として研究を進めました。

１　研究の成果

○教科等横断的な視点で単元を構成することで，各教科等で育んだ資質・能力を生かしながら活動をより良くし，思いや願いの実現に繋げることができました。
○学校外リソースを活用した単元構成とすることで，思いや願いの実現に向かう新たな気付きを得たり，その気付きを基に思いや願いを発展させて次の活動につなげたりすることができました。
○「気付きの想定表」を基に児童の多様な気付きを見取り，それを指導に生かすことで，気付きの質を高めたり，学習に対する満足感をもたせたりすることができました。

２　今後の課題

○児童の実態に応じた魅力的な対象や思いや願いの醸成・発展につながる単元構成を更に検討し，児童が表現したくなる体験活動を充実させていく必要があります。
○生活科での学びを実生活に生かす意欲や自信をもつために，よりよい振り返りの在り方を検討するとともに，意欲や自信を見取り評価していくことが必要です。

Ⅴ　参考文献

○小学校学習指導要領解説　総則編　文部科学省　東洋館出版社　平成29年６月
○小学校学習指導要領解説　生活編　文部科学省　東洋館出版社　平成29年６月
○初等教育資料 No. 978「教科等横断的な視点からのカリキュラム開発と発信」
文部科学省　東洋館出版社　平成31年３月
○初等教育資料 No. 982「他教科等との関連を意識し，指導の効果を高める生活科の在り方」
文部科学省　東洋館出版社　令和元年７月
○初等教育資料 No. 996「思考や認識の育成に向けた意図的・計画的・組織的な授業づくり」
文部科学省　東洋館出版社　令和２年８月
○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校　生活】
国立教育政策研究所　東洋館出版社　令和２年６月
○生活・総合「深い学び」のカリキュラム・デザイン　田村学　東洋館出版社　平成29年７月
○生活科カリキュラム・マネジメント　關浩和　ふくろう出版　令和元年７月
○生活科・総合的学習事典　日本生活科・総合的学習教育学会　渓水社　令和２年９月